

モデルコアカリキュラム

ーガイドラインー

別冊 経済・ビジネス系（分野別専門能力）

2020年版

令和2年3月30日



独立行政法人 国立高等専門学校機構

モデルコアカリキュラム

ーガイドラインー

別冊 経済・ビジネス系（分野別専門能力）

2020年版

MCC 経済・ビジネス系分野の策定と公開について

「MCC ーガイドラインー 別冊:経済・ビジネス系(分野別専門能力)2020年版」では、経済・ビジネス系を学んだ学生が備えるべき「分野別専門能力」を公開した。経済・ビジネス系に対応する「技術者が共通に備えるべき基礎的能力」および「技術者が共通して備えるべき分野横断的能力」は2020年度に策定し2021年に公開予定である。

本別冊では、今回策定した「表4」および「分野別専門能力」のみを掲載している。第1章から第3章および第5章は「モデルコアカリキュラム ーガイドラインー(経済ビジネス系を除く) 平成29年版」を参照されたい。

目 次

第1章 モデルコアカリキュラムによる教育のあり方	2
1-3 単独学科と複合融合学科等におけるモデルコアカリキュラムの考え方	2
第3章 技術者が備えるべき分野別の専門能力における到達目標	7
3-1-10 V-J 経済ビジネス系分野	7
V-J-1 経営	7
V-J-2 会計	8
V-J-3 商業	9
V-J-4 経済	9
V-J-5 法律	10
V-J-6 経営科学	11
V-J-7 情報管理	12
V-J-8 数理統計	12
V-J-9 異文化理解	13

第1章 モデルコアカリキュラムによる教育のあり方

1-1, 1-2については、モデルコアカリキュラムガイドライン-(経済・ビジネス系を除く)-を参照。

1-3 単独学科と複合融合学科等におけるモデルコアカリキュラムの考え方

単独学科あるいは複合融合学科に対してモデルコアカリキュラムを適用する際の配慮事項を表4-10にまとめている。なお、複合融合学科に対しては2通りの配慮事項をまとめている。このため、表中ではコア(単独学科)、コア(複合融合学科で特に専門とする分野)、コア(複合融合学科で組み合わせる周辺分野の専門性、均等に組み合わせる専門性)に関する3通りの履修上の配慮事項をあわせて明記している。これらについては、社会や企業の視点から見た際に「その専門性を学んだ学生」であると認識できることを基本として、学習内容と到達度を設定している。各高専に設置されている専門学科については、この表4の配慮事項及び「モデルコアカリキュラムガイドライン-(経済・ビジネス系を除く)-」の記述に留意してカリキュラムを構築する必要がある。

表4-10 経済ビジネス系分野 到達目標のまとめ その1

経済ビジネス系		能力と 習得レベル	コア(単独学科)	コア(複合融合学科で特に専門とする分野)	コア(複合融合学科で組み合わせる周辺分野の専門性、 均等に組み合わせる専門性)	履修上の配慮	
技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力	I 数学		専門分野の基本的課題の解決に数学の知識や計算技術を用いることができるとともに、数学の知識等を専門分野での現象に関連付けて活用できる。			専門学科における上位概念の到達目標で達成させることもできる。	
	II 自然科学	II-A 物理		物理学の基本知識を修得し、自らの工学分野に応用できる。さらにその過程で、自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。			専門学科における上位概念の到達目標で達成させることもできる。
		II-B 物理実験		実験・観察を通して物理現象を理解し、考察する力を身に付けるとともに、様々な物理量の測定を通して、実験器具やコンピュータ、情報通信機器などの使い方、レポートの書き方を修得する。さらに測定値のデータ処理において、有効数字の意味や誤差の処理、最小二乗法、グラフの作成など、実験全般に関する基本的な事柄を身に付ける。			提示されている6分野のうち、3分野以上の実験(演示実験を含む)を行う。ただし、各実験は専門科目も含めた全体の授業の中で実施して良い。コンピュータや情報通信機器など先端技術の活用や、少人数グループでの探究活動、発表など取り入れ分野横断的能力の到達目標にも関係させることが望ましい。
		II-C 化学		工学的課題に化学的な観点から取り組むことができる基本的な知識として、代表的な材料、物質の成り立ち、化学反応などについての概念を用いたり、必要な計算ができる。			学科・コースによらず、工学につながる基本的な知識としてそのすべてを理解していること。専門学科における上位概念の到達目標で達成させることもできる。
		II-D 化学実験		化学的な事象・現象についての観察、実験を通して、自然科学に対する関心や探究心を持つ。このため薬品や火気の取り扱いなどの安全上の配慮ができ、模範に沿って代表的な器具の取り扱い、基本操作(気体発生、ろ過等)、データの収集や考察ができる。			学科・コースによらず、演示実験も含めて、3項目以上の実験を行うこと。専門学科における上位概念の到達目標で達成させることもできる。
		II-E ライフサイエンス・アースサイエンス		環境面や生態面に配慮して工学に取り組むための基本的なライフサイエンス・アースサイエンスの基礎知識を有する。			学科・コースによらず、必要な基礎知識としてそのすべてを理解していること。専門学科における上位概念の到達目標で達成させることもできる。
	III 人文・社会科学	III-A 国語		専門とする分野を含んで広く日本語を対象に、より高度な理解と柔軟な発想・思考を踏まえ、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションを主体的に行える。			表現・コミュニケーションに関する学習項目については、発表や議論など、教育方法の工夫が必須である。なお、国語到達目標は、「国語」の授業が中心となって育むとともに、他科目と密接に連携した教育により達成されるものである。
		III-B 英語		英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身につけ、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性を持って、社会性のある話題や自らの専門に関する基礎的な情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。			専門分野における英語コミュニケーションに関する学習項目は、異なる文化を持った人々との意見交換やディスカッションなど、教育方法の工夫が必須である。なお、これらの英語到達目標は、他科目と密接に連携した教育により達成されるものである。
		III-C 社会		国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として主体的に社会に参画し、社会が抱える諸問題の解決のために人文・社会科学の知識・理論・情報を利用できる。			18歳選挙権を踏まえた社会参画への意識を持たせることが重要である。このため、特定の課題に対して学生が調査・要約・分類など行う中で、主体的に自らの考えを主張させるなど、教育方法の工夫を実施すること。
	IV 工学基礎		工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)、技術者倫理および技術史、情報リテラシー、グローバリゼーション・異文化多文化理解のための知識を有し、自らの工学の分野に応用できる。			特化した授業科目を設定する必要はない。各高専・学科で開講されているさまざまな科目と関連付けられる。	

V 分野別の専門領域

V-J-1 経営	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理の基礎理論と実態を学び、企業内外におけるマネジメントの役割について説明できる。 経営組織の基礎理論と実態を学び、組織の仕組みや機能が理解でき、特徴や問題点について説明できる。 経営戦略の基礎理論と実態を学び、全社戦略と競争戦略の基本的な分析手法について説明できる。 人的資源管理の基礎理論と実態を学び、目標達成のための人事管理の設計、運営について説明できる。 国際経営の基礎理論と実態を学び、多国籍企業の国際展開について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理の基礎理論と実態を学び、企業内外におけるマネジメントの役割について説明できる。 経営組織の基礎理論と実態を学び、組織の仕組みや機能が理解でき、特徴や問題点について説明できる。 経営戦略の基礎理論と実態を学び、全社戦略と競争戦略の基本的な分析手法について説明できる。 人的資源管理の基礎理論と実態を学び、目標達成のための人事管理の設計、運営について説明できる。 国際経営の基礎理論と実態を学び、多国籍企業の国際展開について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理の基礎理論と実態を学び、企業内外におけるマネジメントの役割について説明できる。 経営組織の基礎理論と実態を学び、組織の仕組みや機能が理解でき、特徴や問題点について説明できる。 経営戦略の基礎理論と実態を学び、全社戦略と競争戦略の基本的な分析手法について説明できる。 人的資源管理の基礎理論と実態を学び、目標達成のための人事管理の設計、運営について説明できる。 国際経営の基礎理論と実態を学び、多国籍企業の国際展開について説明できる。 	
V-J-2 会計	<ul style="list-style-type: none"> 複式簿記の仕組みを理解し、各種取引の仕訳および記帳について説明できる。 外部報告に関連する会計制度および財務諸表の作成と報告について説明できる。 製品原価の計算および原価管理、利益管理について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複式簿記の仕組みを理解し、各種取引の仕訳および記帳について説明できる。 外部報告に関連する会計制度および財務諸表の作成と報告について説明できる。 製品原価の計算および原価管理、利益管理について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複式簿記の仕組みを理解し、各種取引の仕訳および記帳について説明できる。 外部報告に関連する会計制度および財務諸表の作成と報告について説明できる。 製品原価の計算および原価管理、利益管理について説明できる。 	物流系に重点をおく学科では、生産活動に関わる内容は必須の学習内容としない。
V-J-3 商業	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング戦略と市場調査の方法について説明できる。 流通の仕組みと卸売り、小売りの取組みについて説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング戦略と市場調査の方法について説明できる。 流通の仕組みと卸売り、小売りの取組みについて説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング戦略と市場調査の方法について説明できる。 流通の仕組みと卸売り、小売りの取組みについて説明できる。 	
V-J-4 経済	<ul style="list-style-type: none"> 経済主体である家計と企業の行動原理、両者が取引を行なう市場を分析の対象として、希少な資源の最適配分について説明できる。 一国を経済単位として、財市場、貨幣市場、労働市場などで生じる経済現象を分析、経済政策の実行と効果について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済主体である家計と企業の行動原理、両者が取引を行なう市場を分析の対象として、希少な資源の最適配分について説明できる。 一国を経済単位として、財市場、貨幣市場、労働市場などで生じる経済現象を分析、経済政策の実行と効果について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済主体である家計と企業の行動原理、両者が取引を行なう市場を分析の対象として、希少な資源の最適配分について説明できる。 一国を経済単位として、財市場、貨幣市場、労働市場などで生じる経済現象を分析、経済政策の実行と効果について説明できる。 	
V-J-5 法律	<ul style="list-style-type: none"> 権利の主体、法律行為とその効果などについて説明できる。 ビジネスの基本的な仕組みである株式会社制度について説明できる。 創造的活動によって生み出された無体物について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 権利の主体、法律行為とその効果などについて説明できる。 ビジネスの基本的な仕組みである株式会社制度について説明できる。 創造的活動によって生み出された無体物について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 権利の主体、法律行為とその効果などについて説明できる。 ビジネスの基本的な仕組みである株式会社制度について説明できる。 創造的活動によって生み出された無体物について説明できる。 	
V-J-6 経営科学	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における工程管理手法について説明できる。 企業活動における品質管理手法について説明できる。 経営上の意思決定に用いる数理的的手法について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における工程管理手法について説明できる。 企業活動における品質管理手法について説明できる。 経営上の意思決定に用いる数理的的手法について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における工程管理手法について説明できる。 企業活動における品質管理手法について説明できる。 経営上の意思決定に用いる数理的的手法について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 質的アプローチに重点をおく学科では、必須の学習内容としない。 物流系に重点をおく学科では、生産活動に関わる内容は必須の学習内容としない。
V-J-7 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> データモデル、データの正規化、データ項目の抽出について説明ができる。 情報化社会における経営システムの変化について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> データモデル、データの正規化、データ項目の抽出について説明ができる。 情報化社会における経営システムの変化について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> データモデル、データの正規化、データ項目の抽出について説明ができる。 情報化社会における経営システムの変化について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 質的アプローチに重点をおく学科では、必須の学習内容としない。
V-J-8 数理統計	<ul style="list-style-type: none"> 調査によって得られたデータを定量的に評価することができる。 重回帰分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析等について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査によって得られたデータを定量的に評価することができる。 重回帰分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析等について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査によって得られたデータを定量的に評価することができる。 重回帰分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析等について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 質的アプローチに重点をおく学科では、必須の学習内容としない。 物流系に重点をおく学科では、実際の問題を解決できる分析手法を選択できれば良い。
V-J-9 異文化理解	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文法や表現の取得を前提として、社会言語能力を高め、より実践的な言語使用することができる。 文化の相違を理解し、歴史的な文脈、社会的な文脈から、その相違を尊重し共生する意味について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文法や表現の取得を前提として、社会言語能力を高め、より実践的な言語使用することができる。 文化の相違を理解し、歴史的な文脈、社会的な文脈から、その相違を尊重し共生する意味について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文法や表現の取得を前提として、社会言語能力を高め、より実践的な言語使用することができる。 文化の相違を理解し、歴史的な文脈、社会的な文脈から、その相違を尊重し共生する意味について説明できる。 	

表 4-10 経済ビジネス系分野 到達目標のまとめ その2

経済ビジネス系		能力と 習得レベル	本科における到達目標	専攻科における到達目標	履修上の配慮
技術者が備えるべき分野横断的能力	VII 汎用的技能	VII-A コミュニケーションスキル	日本語と特定の外国語を用いて相手の意見を聞きことができ、効果的な説明方法や手段を用いて、自分の意見を伝え、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる	社会科目、国語など一般的な座学科目や、PBL科目、卒業研究、インターンシップ、部活動などさまざまな学習・学生生活を通して達成させることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 企業活動や地域活動する上で、多様な対象者に対して効果的な説明資料を作成し、十分な理解・同意を得ることが必要である。
		VII-B 合意形成	特定の集団による問題解決、アイデア創造などでの合意形成を支援・促進するための方法を適用できる。	特定の集団による問題解決等を促進するため、提案の中から最良のものを選びながら合意形成していくことができる。	グループ活動を伴うすべての教育等において達成させることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 例えば企業活動における円滑なプロジェクトの実行、さらにはクライアントや一般市民等の利害関係者に対して合意形成していくが必要になる。
		VII-C 情報収集・活用・発信力	ICT や ICT ツール、文書等をルールに基づいて情報収集や情報発信に活用できる。	自らの専門分野に対し、情報の正確性や著作権等に配慮して情報収集・活用・発信できる。	社会系科目における調査や実験レポート等での指導、知的財産の活用に関する教育などを通して達成させるなど、柔軟な方法を用いることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 例えば企業活動における円滑なプロジェクトの実行のためにセキュリティやプライバシーにも配慮した ICT ツールによる情報収集と情報の活用・発信が必要になる。
		VII-D 課題発見	実課題を例に、現状とあるべき姿とのギャップの中に課題を見つけることができ、課題の因果関係や優先度を整理し解決策を提案できる。	課題の中の複数の因果関係や優先度を構造化・焦点化することができ、解決策を立案し、実行策を絞り込むことができる。	例えば地域における課題の発見など、学生の社会参加意識の意識の育成にも関係つけることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 企業における業務全体あるいはプロジェクト等の改善や推進を行う上で、取り組むべき焦点を明確化するために課題のプロセスを用いることができる重要性を指導することが望ましい。
		VII-E 論理的思考力	実課題を想定し、論理的な思考のための手段を実践でき、論理性に配慮して解決策の提示に至るプロセスを実践できる。	複雑な事象の本質を論理的思考のプロセスを活用して要約・整理、構造化できる。	「課題発見」と連携・連動させて達成を目指すことが望ましい。 ＜学習内容が反映される分野＞ 企業活動における問題や課題の解決に対し、問題の原因を明確化して複数の解決策を提案し、絞り込み、実行策を計画し提案できる。
	VIII 態度・志向性(人間力)	VIII-A 主体性	具体的な状況下で、周囲の状況を改善すべく自身の能力を主体的に発揮する行動をとれる。	より多様な環境の中で、周囲の状況と自身の立場を照らし合わせ、主体的に行動して仕事を推進できる。	キャリアデザインを目指した学生自身の主体的な行動や学習、アクティブラーニングなど教育活動においても達成させることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 市民および企業人として自らの役割を認識し、継続的な自己管理および自らを律した行動をすることができ、自らの立場に応じて自身の能力を最大限に発揮して、企業活動等を推進していくことができる。
		VIII-B 自己管理能力	日常生活の行動面、精神面、健康面での自己管理ができ、常に自身を良い状態に維持するための努力ができる。	自己管理する上での自分自身の課題や現在の自己管理状況を認識し、よりよい状態に改善するための行動をとることができる。	例えば、自らの健康管理、出席・時間管理など日常の担任等の指導によりあるべき行動の指導をすることも一方法である。 ＜学習内容が反映される分野＞ 市民および企業人として自らの役割を認識し、継続的な自己管理および自らを律した行動をすることができ、自らの立場に応じて自身の能力を最大限に発揮して、企業活動等を推進していくことができる。
		VIII-C 責任感	社会の一員として意識を持って責任ある行動、言動、役割を演ずることができる。	社会の一員として、多面的な観点から責任ある行動、発言、役割を演ずることができる。	例えば、クラスでの約束事、社会とのかかわりの中での行動などを通して達成させることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 市民および企業人としての責任ある行動を常にとることができるとともに、企業の社会責任の観点からも行動をすることができる。
		VIII-D チームワーク力	特定の課題に対し、チームの一員として他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持って共同作業を進めることができる。	より実践的な課題の解決に向けて多様な専門性を持つメンバーからなるチームが、円滑に機能するため、役割を意識した責任ある行動ができる。	例えば、円滑なチームワークの成果として、合意形成の方法への効果を認識させるなど、様々な教育・課外活動等で達成させることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 企業におけるプロジェクト等の遂行において、自身の役割と責任を理解した行動をとることができる。
		VIII-E リーダーシップ	自ら行動の模範を示すことができ、他者に対して適切な行動を促し、共同作業・研究を進めることができる。	組織として目指す方向性を示し、行動の規範を示しながら、チームとしての成果を生み出していくことができる。常に情報収集やチーム内での相談を怠らず、リーダーとしての判断力を磨く意識を持った行動がとれる。	クラブ活動や学生会活動などだけではなく、通常の授業におけるグループワークなど通してもリーダーの役割を実践させることができる。 ＜学習内容が反映される分野＞ 企業におけるプロジェクト等の遂行においてリーダーとしてプロジェクトの遂行に最適な人材を見抜き、選抜でき、各人の能力を最大限に発揮させ、チームとしての業務の遂行を推進できる。また、チームが業務遂行へ効果的に機能しているか評価できる。

	VII-F 倫理観(独創性の尊重、公共心)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を意識し、技術者が社会に負っている責任を踏まえた基本的な行動がとれる。	技術者が社会に負っている責任と独創性を認識し、技術の成果が社会に受け入れられるように行動できる。	<p>実例をもとにディスカッションさせるなど、学生に主体的に考えさせることが必要である。</p> <p><学習内容が反映される分野></p> <p>企業における法令順守や、過去の事例を様々な要素から参照・融合して、適切な行動指針を決定できる。</p>
	VII-G 未来志向性・キャリアデザイン力	自身のありたい姿を実現するための職業を選択する上での価値観を明確化し、自身のありたい姿の実現のために目標を立てた行動を継続できる。さらに自己の価値観や適性の認識の中でキャリアデザインを修正し、目標を再設定できる。	社会に出てからこそ社会情勢の変化、ライフイベントに応じて自らのキャリアを力強く切り開いていかなければならないことを想定して、自分の適性や価値観を分析し、進路を選択できる。	<p>今学んでいることが将来にどう関係するか、将来のライフイベントの把握、その中で進路選択上の自らのポイントなどを低学年から継続的なキャリアデザインの指導により実践させる必要がある。</p> <p><学習内容が反映される分野></p> <p>自らの現状を把握し、必要な行動や学習を継続して、人生における様々な局面を力強く切り開いていく(生き抜いていく)ことができる。</p>
	VII-H 企業活動理解	企業活動を複数の観点から調査できる。	企業活動を複数の観点から総合的にとらえるために情報を収集・整理・比較ができる。	<p>キャリアデザインとも密接に関係させて、企業を多様な観点から判断して、自らの進路選択に活かすという考え方を持たせる必要がある。</p> <p><学習内容が反映される分野></p> <p>進路選択へのミスマッチを防ぐため、さらには就職後のライフステージにおける様々な判断においても活かされる企業理解のための観点を選択できる。</p>
	VII-I 学習と企業活動の関連	社会人として活躍するために必要な学習・体験・能力を具体化して関連付けられる。	社会人として活躍するために必要な学習・体験・能力と自らの差異を考えられる	<p>より良いキャリアを構築していくためのステップとして、高専教育を通して自らのスキルの向上や目標とするスキルの到達点を客観的に振り返らせ、継続的な努力を支援する必要がある。</p> <p><学習内容が反映される分野></p> <p>自らの現状を把握し、自らの強みと弱みを踏まえた継続的な行動や学習を進めることができる。</p>
IX 総合的な学習経験と創造的思考力	IX-A 創成能力	指定された工学的課題の解決のためにシステム、構成要素、工程等を創出できる。	実課題などの実践的な工学的課題の解決のためにシステム、構成要素、工程等を創出できる。	<p>例えば、これまで学んできた専門能力や実験実習能力、情報収集・分析力など駆使し、論理的に思考する方法を適用させることになる。</p> <p><学習内容が反映される分野></p> <p>企業活動等において、複合的な要素を踏まえ、特定の需要に適合した新規のシステム・構成要素・工程を自ら設計することができる。</p>
	IX-B エンジニアリングデザイン能力	クライアントの要求を解決するためのプロセス(企画立案から実行)を特定の条件に照らして実践でき、解決策を創案できるようになる。	クライアントの要求を解決するため QCD 等の複数の制約条件を考慮した解決策を提示でき、要求を満たす最適なシステムやプロセスを提案・開発できる。	<p>例えば、地域から課題を見つけるPBLや、卒業研究・特別研究などで実践できるが、課題解決のためには課題発見のプロセスや調査方法など複数の能力の育成もあらかじめ必要である。</p> <p><学習内容が反映される分野></p> <p>企業活動および地域活動におけるクライアントの要求を明確化し、QCD 等の複数の制約条件を考慮して、要求を満たす最適なシステムやプロセスを提案・開発できる。</p>

第3章 技術者が備えるべき分野別の専門能力における到達目標

3-1 V-J 経済・ビジネス系分野

3-1-11 V-J-1 経営

<p>【本科における教育領域の到達目標】 経営領域は、企業の経営活動を対象にして、その構成と行動原理を分析するための基礎について学ぶ領域である。 ・経営管理では、経営管理の基礎理論と実態を学び、企業内外におけるマネジメントの役割について説明できること。 ・経営組織では、経営組織の基礎理論と実態を学び、組織の仕組みや機能が理解でき、特徴や問題点などについて説明できること。 ・経営戦略では、経営戦略の基礎理論と実態を学び、全社戦略と競争戦略の基本的な分析手法について説明できること。 ・人的資源管理では、人的資源管理の基礎理論と実態を学び、目標達成のための人事制度の設計や運営について説明できること。 ・国際経営では、国際経営の基礎理論と実態を学び、多国籍企業の国際展開について説明できること。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 基礎経営論、経営入門、経営学概論、経営学、経営管理論、組織論、経営組織論、組織行動論、経営戦略論、人的資源管理論、人事管理論、労務管理論、国際経営論、グローバル経営論、多国籍企業論など</p>	
学習内容	到達目標
経営管理	古典的管理論について説明できる。
	人間関係論について説明できる。
	リーダーシップ論について説明できる。
	動機付け理論について説明できる。
	企業の社会的責任について説明できる。
	日本的経営について説明できる。
経営組織	組織の定義について説明できる。
	組織均衡論について説明できる。
	組織構造と組織デザインについて説明できる。
	組織文化について説明できる。
	組織学習と組織変革について説明できる。
	組織間関係論について説明できる。
経営戦略	経営理念・ビジョンと戦略の関係について説明できる。
	環境の把握と分析について説明できる。
	成長戦略について説明できる。
	多角化戦略について説明できる。
	競争戦略について説明できる。
	資源ベース理論について説明できる。
人的資源管理	雇用管理について説明できる。
	労働時間管理について説明できる。
	賃金管理について説明できる。
	人材教育について説明できる。
	外部人材活用について説明できる。
	労使関係管理について説明できる。
国際経営	海外直接投資と日本の産業空洞化について説明できる。
	多国籍企業と現地化について説明できる。
	技術移転と海外研究開発について説明できる。
	国際人的資源管理、国際経営組織について説明できる。

2-2 V-J-2 会計

<p>【本科における教育領域の到達目標】 会計領域は、会計の役割や機能について理解し、会計情報を作成するための方法および利用するための知識について学ぶ領域である。 ・簿記では、複式簿記の仕組みを理解し、各種取引の仕訳および記帳について説明できること。 ・財務会計では、外部報告に関連する会計制度および財務諸表の作成と報告について説明できること。 ・原価計算では、製品原価の計算および原価管理、利益管理について説明できること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・各種会計処理やコスト計算については、実務の動向を踏まえて中級レベルまで対応することが望ましい。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 簿記入門、簿記概論、簿記演習、工業簿記論、原価計算論、会计学、会计学概論、財務会計論、管理会計論、会計理論、国際会計論、経営分析論など</p>	
学習内容	到達目標
簿記	複式簿記の基本的な仕組みについて説明できる。
	各種取引について仕訳および転記することができる。
	試算表を作成できる。
	決算整理手続きができる。
	財務諸表を作成できる。
	会計帳簿の種類と役割について説明できる。
財務会計	財務会計の役割、法規制について説明できる。
	財務会計の基本原則について説明できる。
	貸借対照表の区分と内容について説明できる。
	損益計算書の区分と内容について説明できる。
	財務諸表の各項目の認識および測定方法について説明できる。
	キャッシュフローの計算書の区分と内容について説明できる。
	連結財務諸表の連結の範囲について説明できる。
	連結財務諸表の作成について説明できる。
	財務諸表分析の指標について説明できる。
	会計基準のグローバル化について説明できる。
管理会計	工業簿記の特色と仕組みについて説明できる。
	原価の概念と種類について説明できる。
	原価の費目別計算ができる。
	個別原価計算ができる。
	総合原価計算ができる。
	標準原価計算の目的と差異分析について説明できる。
	直接原価計算の目的と予算分析について説明できる。
	意思決定会計について説明できる。
事業投資について説明できる。	

V-J-3 商業

<p>【本科における教育領域の到達目標】 商業領域は、マーケティング、流通についての基本的な仕組みについて学ぶ領域である。 ・マーケティングでは、マーケティング戦略と市場調査の方法について説明できること。 ・流通では、流通の仕組み卸売り、小売りの取り組みについて説明できること。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 マーケティング論、マーケティングリサーチ、消費者行動論、商学入門、商学概論、流通論など</p>	
学習内容	到達目標
マーケティング	マーケティングミックスについて説明できる。
	マーケティングにおけるインターネットの活用について説明できる。
	市場のセグメンテーションについて説明できる。
	製品ライフサイクルについて説明できる。
	競争地位戦略について説明できる。
	消費者行動について説明できる。
	市場調査の方法について説明できる。
流通	流通の仕組みと流通チャネルについて説明できる。
	小売業の役割と諸形態について説明できる。
	プライベート・ブランド開発について説明できる。
	卸売業の役割と諸形態について説明できる。
	サプライチェーン・マネジメントについて説明できる。
	情報技術の発達と流通の変容について説明できる。
	流通のグローバル化について説明できる。

V-J-4 経済

<p>【本科における教育領域の到達目標】 経済領域は、経済主体の行動原理、ビジネスに影響を与える経済環境、経済政策について学ぶ領域である。 ・ミクロ経済学では、経済主体である家計と企業の行動原理、両者が取引を行なう市場を分析の対象として、希少な資源の最適配分について説明できること。 ・マクロ経済学では、一国を経済単位として、財市場、貨幣市場、労働市場などで生じる経済現象を分析、経済政策の実行と効果について説明できること。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 経済学、経済学入門、経済学概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学など</p>	
学習内容	到達目標
ミクロ経済学	家計の行動について説明できる。
	企業の行動について説明できる。
	市場均衡について説明できる。
	ゲーム理論について説明できる。
	情報の経済学について説明できる。
マクロ経済学	国民経済計算について説明できる。
	45度線分析について説明できる。
	IS-LM 分析について説明できる。
	総需要・総供給分析について説明できる。
	国際経済について説明できる。
経済成長論について説明できる。	

V-J-5 法律

<p>【本科における教育領域の到達目標】 法律領域は、ビジネスに関する多様な法律関係について学ぶ領域である。 ・民法では、権利の主体、法律行為とその効果などについて説明できること。 ・会社法では、ビジネスの基本的な仕組みである株式会社制度について説明できること。 ・知的財産法では、創造的活動によって生み出された無体物について説明できること。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 法学概論、民法、商法、会社法、ビジネスと法、知的財産法、コーポレート・ガバナンスなど</p>	
学習内容	到達目標
民法	権利・義務関係について説明できる。
	自然人・法人概念を理解し、その能力について説明できる。
	物権と債権の概念、その種類について説明できる。
	契約と意思表示について説明できる。
	契約と物権変動について説明できる。
	契約の種類について説明できる。
	売買契約の法律関係について説明できる。
	貸借契約の法律関係について説明できる。
	代理制度と時効制度について説明できる。
	担保権の種類と役割について説明できる。
	契約以外の法律行為について説明できる。
会社法	会社の種類と社員の責任について説明できる。
	株式会社の特徴について説明できる。
	株式会社の設立について説明できる。
	株式の意義、種類、譲渡について説明できる。
	株主の権利と責任について説明できる。
	会社の機関の種類と役割について説明できる。
	取締役の義務と責任について説明できる。
	会社の資金調達について説明できる。
企業再編の種類と主な手続きについて説明できる。	
知的財産法	産業財産権について説明できる。
	著作権について説明できる。

V-J-6 経営科学

<p>【本科における教育領域の到達目標】 経営科学領域は、経営分析を定量的に行い、課題解決の手法について学ぶ領域である。 ・生産管理では、生産活動における工程管理手法について説明できること。 ・品質管理では、企業活動における品質管理手法について説明できること。 ・オペレーションズリサーチでは、経営上の意思決定に用いる数理的手法について説明できること。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 経営科学、経営工学、オペレーションズリサーチ、品質管理論、生産管理論など</p>	
学習内容	到達目標
生産管理	生産管理の役割について説明できる。
	生産計画と生産統制について説明ができる。
	資材、購買管理、設備管理について説明できる。
	生産システムについて説明できる。
品質管理	品質の定義、品質管理の必要性について説明できる。
	品質保証の仕組みについて説明できる。
	品質の設計と改善について説明できる
	統計的品質管理について説明できる。
	QCの七つ道具について説明できる。
オペレーションズリサーチ	PERTについて説明できる。
	AHPについて説明できる。
	待ち行列について説明できる。
	在庫管理について説明できる。
	線形計画法について説明できる。
	非線形計画法について説明できる。
	動的計画法について説明できる。
	組合せ最適化について説明できる。

V-J-7 情報管理

<p>【本科における教育領域の到達目標】 情報管理領域は、データベースと経営情報について学ぶ領域である。 ・データベースでは、データモデル、データの正規化、データ項目の抽出について説明ができること。 ・経営情報では、情報化社会における経営システムの変化について説明ができること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・経済・ビジネス分野におけるデータベースでは、ユーザーの立場からの学習をすることが望ましい。 ・実際の情報分析を通じて理解を深める授業が行えるように工夫することが望ましい。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 データベース論、経営情報論、情報管理論、情報システム演習、経営情報システム演習など</p>	
学習内容	到達目標
データベース	代表的なデータモデルについて説明できる。
	ビックデータの活用例について説明できる。
	データベース化するために必要な項目を抽出できる。
	データの正規化について説明できる。
	データベース操作言語を用いて基本的なデータ問い合わせを記述できる。
経営情報	企業経営と情報システムの関係について説明できる。
	経営情報システムの変遷について説明できる。
	経営情報システムの設計・開発・管理方法について説明できる。
	情報通信技術とビジネス・プロセスの革新について説明できる。
	電子商取引の仕組みについて説明できる。
	電子商取引の動向と課題について説明できる。

V-J-8 数理統計

<p>【本科における教育領域の到達目標】 数理統計領域は、統計、多変量解析についての基本的な計算について学ぶ領域である。 ・統計では、調査によって得られたデータを定量的に評価することができること。 ・多変量解析では重回帰分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析等について説明できること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・統計、多変量解析については、ビジネスデータを取り扱うことが望ましい。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 統計学、多変量解析、確率統計論、経営統計学、数理統計など</p>	
学習内容	到達目標
統計	一次元データを整理してヒストグラムを作成できる。
	一次元データの平均、分散、標準偏差を求めることができる。
	二次元データを整理して散布図を作成できる。
	二次元データから相関係数・回帰曲線を求めることができる。
	二項分布、正規分布、確率密度関数について説明できる。
	区間推定、仮説検定ができる。
多変量解析	重回帰分析を行うことができる。
	クラスター分析について説明できる。
	主成分分析について説明できる。
	因子分析について説明できる。
	数量化理論について説明できる。

V-J-9 異文化理解

<p>【本科における教育領域の到達目標】 異文化理解は、外国語コミュニケーションと異文化コミュニケーションについて学ぶ領域である。 ・外国語コミュニケーションでは、既習の文法や表現の取得を前提として、社会言語能力を高め、ビジネスの場面で実践的な言語使用することができること。 ・異文化コミュニケーションでは、文化の相違を理解し、歴史的、社会的文脈からその相違を尊重し共生する意味について説明できること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・取り扱う外国語については主に英語が考えられるが、特に限定しない。 ・専門科目のみでなく一般科の科目とのカリキュラムマネジメントが重要である。外国語による議論手法なども教授し、より円滑に授業が行えるように工夫することが望ましい。 ・国際経営やダイバーシティ経営への接続を意識した授業が行えるように工夫することが望ましい。 ・長期休暇等を利用して学修(語学研修、海外研修、海外インターンシップ)を促すことが望ましい。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 英語、ビジネス外国語、専門外国語、アカデミックライティング、異文化コミュニケーション、非言語コミュニケーション、言語と文化、国際コミュニケーション、外国事情、国際経営論、異文化経営論、卒業研究、語学研修、海外研修、海外インターンシップなど</p>	
学習内容	到達目標
外国語コミュニケーション	外国語で書かれたビジネスに関する文章を要約することができる。
	専門分野のテーマについて、エッセイを外国語で書くことができる。
	専門分野のテーマについて、外国語で議論することができる。
異文化コミュニケーション	専門分野における異文化コミュニケーションの具体的事例について評価できる。
	言語が話されている地域の社会的・文化的な背景まで理解した上で言語を使用することができる。
	地球規模で発生している問題の重要性を理解した上で、外国語を用いて調査し、議論することができる。